「(公社) 奈良県理学療法士協会　専門領域勉強会　特別講習会に参加して」

今回、奈良整形リハビリテーション勉強会担当の「変形性膝関節症の評価と運動療法」を受講させていただきました。変形性膝関節症は日本国内に限っても患者数は約 700 万人というありふれた疾患であり、年だからとあきらめたり、我慢しているケースが多いのもこの病気の特徴で、行動が制限されがちになるため、適切なケアが望まれます。少し古いデータですが、2005 年の東京大学の関節疾患総合研究講座の吉村典子教授らが板橋区と和歌山の日高川町の住人の合わせて約 2,200 人を対象に行なった X 線撮影を含む調査では 50 歳以上の女性で 74.6%、男性で 53.5%が変形性膝関節症の患者であるとの報告がありました。普段我々の臨床現場でも変形性膝関節症で歩行障害や ADL の拡大、QOL の獲得に障害を持つことをよく経験すると思います。変形した膝だから痛みが出て、仕方がないと思ったことも多くありました。しかし今回の講習を受けて、考え方を改めることが出来ました。

今回の講習は二日間あり、座学や触診・治療などの実技などが充実した研修でした。講師に整形外科リハビリテーション学会　特別上級指導員である岸田先生、アシスタントして同学会の神山先生と岡西先生が来てくださり、わかりやすく、ご講義と実技のご指導をしていただきました。座学においては解剖学・運動学、最近の知見や考え方、評価のポイント、変形性膝関節症の病態など臨床と絡めて教えていただきました。実技は２人１組となり、違う施設・異なる経験年数のセラピストと共に、悩み、考え、伝えることが出来ました。それもまた今後につながる経験でした。骨を立体的にとらえること、筋がどこについてどのように走行しているか、筋や靭帯の作用なども考えながらの実技は難しく感じました。特にイメージをすることが大切だと、講師の先生方は言われました。特に難しいと感じたことは体の使い方でした。体の使い方によって、固定がしっかりできたり、ゆるかったりします。評価や治療にも影響を及ぼし、自分の体の負担にもなることがあります。座学だけで終わると、評価の仕方がわかっていても適切に評価できない時もあります。このように実技をさせていただくことでちゃんと目的の筋・靭帯など触れているかだけではなく、体をどのように使えば良いのかもアドバイスをいただき、大変実りある実技になったと感じました。

最後に、このような研修の場を作っていただいた奈良整形外科リハビリテーション勉強会スタッフの方々、丁寧にご指導していただいたご講師の先生方に深く感謝したいと思います。

おかたに病院　リハビリテーション科　酒井　直樹

運動連鎖
lotto